

「この福音は、あなたがたが神の恵みを聞き、それをほんとうに理解したとき以来、あなたがたの間でも見られるとおりの勢いをもって、世界中で、実を結び広がり続けています。福音はそのようにしてあなたがたに届いたのです。」（コロサイ1:6）

### 【巻頭言】

#### 「土を変え、木を育て上げる」

福井 誠

かつてハーバード大学実践神学の教授を務め、その後知的障がい者施設ラルシュの施設長となったヘンリー・ヌーウェン（ナーウエン）が書いた『傷ついた癒し人』は、1981年に邦訳されましたが、これに注目する人はわずかであったように思います。というのも、多くの人々は、まだまだ教会成長に関する書籍に強く引き付けられ、そうした書物が次々と翻訳出版されていた時代だったからです。やがて立場を超えて、カトリックの神学者ヌーウェンの書籍が30冊近くも続けて翻訳され、プロテスタント陣営でも盛んに読まれるようになったのは、横文字を縦文字にするだけの方法論に、疲れが出て、霊的な励ましを求める風潮が強まったためなのかもしれません。しかし、実際のところ、最近の教会成長路線の書籍は、ヌーウェンの語るどころとほとんど変わらなくなりました。たとえば米国の牧師ピーター・スキヤゼロが自らの教会大分裂の経験をもとに書き起こした『情緒的に健康な教会をめざして—教会の成熟に不可欠なもの』は、両者の考え方を融合させた象徴的な著作です。もはや霊想か教会成長かという二者択一の議論は過去のものとなり、教会の働き人は今や、教職と信徒個人個人の霊的な成長が教会を成長発展させるという地味な現実に向き合うようになったのです。

ところで先日『奇跡のリンゴ』を見ました。「Fruit of Faith（信仰の実）」という字幕のタイトルに魅かれて見た映画でしたが、それは、青森県を舞台とし、家族を愛し、リンゴ農家の将来に夢を馳せた農夫、木村秋則の実話を基にした作品でした。財を使い果たし、村八分にされながら、絶対不可能と言われたリンゴの有機栽培を成功させた物語で、フイレンツェ映画祭で観客賞も受賞しています。その映画を見て、なるほどと思ったのは、リンゴの木はそれ自体で生きているわけではなく、それを取り巻く自然環境と共にあることに主人公が気づいた点です。リンゴの木だけではなくリンゴの木が生えている環境と、双方への取り組みが成功への転機となりました。実に単純なポイントでしたが、教会も同じだな、と思わされました。

バルトやトゥルナイゼン以降、実践神学の分野では、教会からこの世界における教会の「場」へ議論の視点がシフトしましたが、まだまだ視点転換を促す掛け声程度の感がありません。最近のキリスト教界での出版物の話題や種々の運動、たとえばローザンヌ運動の着眼点も同様に思います。やはり大切なのは、変わり者と思われ、貧しくなろうとも、教会を愛しキリスト教界の将来に夢を馳せ、具体的な教会と教会が置かれた環境に向かい合い、土を変え、木を育て上げる地味な働きを続ける人が起こされていくことなのでしょう。



J E A 宣教委員、お茶の水聖書学院教授・教務主任、東京基督教大学講師  
日本バプテスト教会連合 玉川キリスト教会牧師

## 【JMRレポート】

今回のJMRレポートは、「教会と地域福祉フォーラム21 第5回シンポジウム」の内容及び『日本宣教ニュース第7号』の巻頭言に対する応答を掲載致します。

また、他宗教に関する情報を、今回も『中外日報』のオンライン情報から、一部抜粋して転載させていただきます。

### ◆「教会と地域福祉」フォーラム21 第5回シンポジウム ◆

1. 日 時：2016年3月12日（土）10:30～16:00
2. 場 所：日本基督教団聖ヶ丘教会
3. テーマ：「居場所を失う若者たち～教会と地域ができること」
4. 講師&パネリスト

【基調講演】碓井真史氏：社会心理学者、新潟青陵大学大学院教授、新潟市スクールカウンセラー、テレビ新潟番組審議委員を兼任

【パネリスト】・野田 沢氏：日本キリスト教団 学生キリスト教友愛会主事

- ・小倉 哲氏：東京YMCA “liby” スタッフ
- ・宇井彩野氏：カトリック青年労働者連盟会長
- ・稲垣久和氏：東京基督教大学大学院教授

【主催・後援】 共催：キリスト新聞社／東京基督教大学共立基督研究所  
後援：いのちのことば社出版部／ロゴスフィルム

#### ◇ 開催の趣旨

フォーラム21では、「教会と地域福祉」を日本の重要な宣教課題として掲げ、これまでも高齢者福祉、児童福祉等をテーマに4回のシンポジウムを行ってきた。

今回は、「若者の居場所」をテーマに、不登校、ニート、ひきこもり、生涯派遣、ブラック企業、ワーキングプアなど、若年層を取り巻く環境を知るとともに、彼らの失った「居場所」をいかに回復できるか、教会と地域の課題として考えたい。

#### ◇【基調講演】「居場所を失う若者～教会と地域ができること～」：碓井真史氏

居場所とは、ありのままに居られる場所、癒しの場、役に立てる場所、活躍の場であると定義できる。居場所がないと生きづらさを感じ、孤立がスティグマ（不名誉）になり、承認欲求を満たすために過剰適応するようになって、やたらと周囲に気を遣い、反対意見や自己主張が言えなくなっている若者が多い。

そうした中で、現代の青年は、能力の不安、将来の不安に加え、居場所がないという存在自体の不安を抱えている。

また、心理学でいう「ギャングエイジ」がなくなり、青年期も「疾風怒涛の時代」ではなく、今や大人は敵ではなく、親も乗り越えるべき壁ではなくなった。凶悪少年犯罪も激減している一方で、国際比較でも、自己肯定感が低く、やる気がなく、将来に希望がない。極めて安定した豊かで複雑な現代社会で、何もしなくても酷いことにはならず、何をやっても素晴らしいことが起きないと思っている。

このような若者の心が健康になる条件としては、まさに「居場所」の回復や、自己肯定感、内発的動機付けが高まる場所が必要となる。自己肯定感（自尊感情）の4要素としては、

- ①周囲から愛され包まれている「包み込まれ感覚」（神に愛されているように）
- ②友人達と話が通じるといふ「社交性感覚」（主に在る兄弟姉妹のように）
- ③自分は頑張ることができる人間だといふ「勤勉性感覚」（目標目指して喜んで活動できる）
- ④自分のことが好きだといふ「自己受容感覚」（罪びとであっても自己否定しない）

また、内発的動機づけの3要素としては、

- ①自己決定感（自分が人生の主役になれる自律性支援環境）（「ニーバーの祈り」のように、決められないことはあたかも自分で決めたかのように受け入れる）
- ②自己有能感（努力が報われる応答性支援環境）（聖書にあるように、無駄にならない労苦）
- ③交流感（重要な他社からの受容感、共感しあえる仲間）（神の愛、教会の交わり）

そして、ポジティブ心理学でも実証されている幸福になる行動習慣、感謝する、目標目指して熱中する、人と比較しない、楽観的に、人に親切にし、自分が許されている存在だと知って、人を許すこと等を、身につけることが大切である。

教会は、若者たちに「神はあなたを愛し、あなたに使命と役割を与えておられる」ことを教えることが必要ではないか。

#### ◇ ゲスト登壇者による発言

その後続いて、若者を対象に活動する3団体から3人の講師が登壇し、それぞれの活動について報告した。

##### (1) 野田 沢氏：日本キリスト教団 学生キリスト教友愛会（SCF）主事

SCF は、参加者の7割がノンクリスチャン。それぞれが「ここに居場所がある」と感じ、残っている。

今の教会は、若者のために本当に変わることができるだろうか。教会は、『変わらなければならない』ことを決心し、教会としての共通理解を持たなければならない。そのためには、教会に、礼拝に、説教に、牧師や信徒一人一人の心と祈りに青年の居場所があるかどうかを問うことが必要だ。そして、若者が教会に真に求めているものは何かを知り、青年宣教における私たちの勘違い、ミスマッチを知ることがスタートラインではないだろうか。

##### (2) 小倉 哲氏：東京 YMCA “liby” スタッフ

liby は、1998年にスタートし、主に不登校の子どもたちに居場所を提供し、医療・心理・教育・生き方・はたらき方などを「子ども・若者の目線」で見つめ直しながら活動している。

現在、不登校12万人、引きこもりは70万人にのぼる。「引きこもり」には、本来「休息」や「新たな決断のためこもる」等の意味があったが、最近では、「失敗、挫折」「自分を閉ざし、死へ向かう」等、ポジティブなイメージはなくなってしまった。「引きこもり」は「隠したいこと」とされ、社会から見えなくなり、その結果「居場所を失う」ことになる。

現在は、ネットの普及等で世の中の仕組み自体が人とつながる必要がない社会となり、引きこもりを生み出しやすい環境にある。誰でも「引きこもり」になる可能性がある今、偏り過ぎず、バランス良く関係性を持つことが必要。「自分と違う人を認めたり、受け入れたりとすることができる場、多様な人が関わりあえる場、豊かな交流の場」があるといい。そういう場が教会にはあるのではないだろうか。

##### (3) 宇井彩野氏：カトリック青年労働者連盟（日本 JOC）会長

日本 JOC は、20代前後の働く、働こうとする若者のグループ。1911年にベルギーのカルデン神父が、産業革命後過酷な環境で働く若者たちとで始めた活動。日本では1949年、小倉でスタートし、現在は、札幌、大阪、広島を拠点に活動している。

JOC では、“人を大事にする”という精神のもとに、現状を分析し、現状を変えていくための実行プランを立て、仲間と一緒に成長することを目指す。最も大切にしているのは、「生活と活動の見直し」で、「見る」「判断」「実行」という原則である。その人が置かれている現状とその原因や影響を見る。そこから一人一人が大切にされているか、人間らしく生き生きしているかを判断し、現状に応じてできることを考えて実行する。こうした活動を通して、家庭や職場、社会を、正当な労働が守られる場、人間らしい健康的な生活ができる場、自分自身に誇りを持てる場、差別なく人とつながれる場、「豊かな場」としていくことが2016年度の日本 JOC の目標である。

#### ◇ コメンテーター 稲垣久和氏のコメント

JOCはカトリックであるが、教会の外で、献金によって支えられながら、働く青年たちの話し合いの場としての活動を行っている。このことをプロテスタントも学ぶ必要がある。制度化された教会ではできないことをやる。それも広い意味での教会、エクレシアである。

このような、JOCの働きは、潜在的にlibyや、SCFの働きにも見られる。教会の外に若者の居場所を作り、そこから教会に人を送り、教会が人を育て、またそういうところに派遣するという、広い意味での教会、神様の愛の働く場としてのエクレシアというものを、カトリック・プロテスタントの境を乗り越えて作っていただけることをビジョンとして持つことができた。

【文責：柴田 初男】

### ■ ■ ■ 東京基督教大学ニュース ■ ■ ■

## TCUウェブ講義始まる！

2015年12月にTCUウェブ講義が、本学Youtubeチャンネルにおいて始まりました。最初の講義は、稲垣久和教授による「宇宙の目的」全4回シリーズです。

この取り組みは、本学のキリスト教世界観に立った教養、神学、国際関係、英語、福祉などの教育コンテンツを広く公開することで、より多くの方の学習の機会として活用してもらいたいという願いから始まりました。今後、コンテンツの内容を充実させていきますのでぜひ期待をもってご覧ください。



<https://www.youtube.com/tokyochristianuni>

## FCC（国際宣教センター）教会教職特別セミナー

テーマ：「<震災と信仰調査>に見るこの5年ところからの5年」

講師：大友幸一先生（塩釜聖書バプテスト教会牧師）

日時：5月23日(月) 13:00-15:30

場 所：国際宣教センターチャペル

受講料 一般 2,000円 支援会員 1,000円（当日入会可）  
申込内容 ①氏名 ②電話 ③E-mail ④所属教団・教会名  
申込み先 E-mail: [fcc@tci.ac.jp](mailto:fcc@tci.ac.jp) Fax: 0476-31-5521  
申込締切 5月18日(水)

## 他宗教に関する新聞記事から 【2016年1月～2016年3月】

### 自らの信仰・信心が試される 自死・自殺と向き合う僧たち “精いっぱい生きた命” 宗教者は共有を 苦悩聞き、独りぼつちにしない

自死・自殺の問題に取り組む宗教者が、宗派を超えて各地で会を持つようになった。宗教者との触れ合いを通して、死を選ぶまでに悩みを抱えた人や自死者の遺族が、落ち着きを取り戻す機会を得ているようだ。その一方で、葬儀の場などで宗教者から心ない言葉によって傷つけられた、とする遺族の声も聞く。「人を孤独にさせないことと、人と対話を続けること」が、宗教者自身の信仰・信心と深く関わる問題となっている。(萩原典吉)

「なぜ、こんなに苦しまなければならないのでしょうか」。「では、その苦しみがどこから来たのか、一緒に探っていきましょう」。臨済宗妙心寺派大禅寺（岐阜県関市）では、相談者と根本紹徹住職（43）の語り合いが続く。「自死念慮者や自死遺族と出会うことと、僧侶としての日常は一体のもの」と、根本住職は気負いなく話す。

「自死念慮者と遺族に共通するのは孤独感。必要なのは、安心して話ができる場と仲間の存在」で、それも支援する側と支援される側の関係ではなく、互いに影響され、共感できる場をつくることを目指す。信仰が試されるが「人間とは何かを知らながら、自分とは何かを知っていくのが仏教であり、まさしく僧侶にほかならない」と言う。

根本住職が自死・自殺の問題に向き合うのは、自らの体験が大きい。小学生の時、叔父が自死した。そのショックで祖父が階段から落ちて植物状態になった。それにとどまらず、中学時代に仲が良かった同級生が、高校生の時に自死した。また脱サラし小僧生活を経て、27歳で正眼僧堂（岐阜県美濃加茂市）に掛搭する直前、高校時代のバンド仲間が自ら命を絶った。「もう勘弁してほしいと思った。修行中も、一時は彼のことがばかり考えていた」。

それらの体験を通して思うのは「人の命はあつげなく、また尊いということ。自死は加害者と被

害者が同じで、気持ちの持っていきどころが無い。遺された者は何もできなかった自責の念が募る」。

4年半の僧堂生活の後、修行の成果がどこまで社会に通用するかを確かめたいと、アルバイトをしながら職場仲間の相談にも乗った。

最近では、自死・自殺の悩みの相談を受けると、気が重くならないかと問われるが、「相談者と対話を終える時、新たな気付きや反省、またそれまでの見え方が少しでも変わる終わり方をすれば、私の場合は良い疲労感だけが残る」と言う。

根本住職は、東海地方の宗教者が超宗派で集まる「いのちに向き合う宗教者の会」代表でもある。今年も12月、7回目となる自死者追悼法要を営む。また遺族の要望で年4回の茶話会を始め、毎回15～20人が来場し、ひとときを過ごしている。

なぜ自死・自殺の問題に関わるか。「苦しんでる人を知ったから」と宗教者たちは口をそろえる。それでも相談者を前にして、無力を感じ、「自分たちにできることは、その人から離れず、せいぜいものがくことぐらい。それが親鸞聖人が言う凡夫の姿なのかもしれない」と語る僧侶がいた。

### 遺族と集い 同じ場所で苦しむ

#### 言葉の軽さ・偽善気付き

関西在住の超宗派僧侶による「自死に向きあう関西僧侶の会」は発足して5年目。2カ月に1回、自死遺族が集う「いのちの集い」を開いている。平均15人前後が来場し、名前も住所も聞かないが、多くは女性。男性遺族に特化した相談会も別々開いている。また、東海地方の「いのちに向き合う宗教者の会」と同様、12月には自死者追悼法要を営む。

発会から代表を務める福井智行・真宗興正派称名寺住職（41）＝大阪府門真市＝は、東京での本願寺派僧侶の取り組みを知り、同じような会を関西でも開く必要性を感じた。「当時は毎年3万人くらいの方が自死しているという程度の知識で、自死遺族の会のことも知らなかった。始めてみると、こんなにしんどい思いをしている人が、気付かなかったけれども隣にいたんだと衝撃だった」。

これまでの遺族との触れ合いで、強く印象に残っているのは「夜、寝る時に、このまま目が覚めなければいいのに、と思います」との言葉だった。子どもを亡くしたお母さんで、「本当は自分も早く死にたいが、自分まで自殺したら夫や他の子がショックを受ける。だから寝ている間に、車が突つ

込んできて自分だけが死にたい。家族は巻き添えになっただけでほしくない」と話した。「そんな思いで夜、床に就く人がいるとは思わなかった。でも、遺族の方々はうなずいていらっしやう。私だけが驚いていたようだった」。

この触れ合いは、福井住職自身にも変化を生じさせた。「例えば、私たちが語る言葉の軽さというか、偽善を感じるようになった。本当は語りたいたいのではなく、その状況から自分が逃げたい、自分を守るために語っていたのではないか。重い雰囲気、圧倒的な悲しみから自分を切り離そうとし、自分は語る立場、相手は聞く立場という壁をつくり、自分を守ろうとしていたのではないか」。

その経験は福井住職の信心を揺さぶり、普段の法話にも影響し始めた。「教化には、上から教えて導くというイメージがあるが、本当はそうではない。同じ所に立って、一緒に苦しみ、その中で自分はこう思うと。それに対して、何かを感じてもらおうのが法話だと。その当たり前のことに、改めて気付いた」。福井住職は「自殺したのは弱いからだとか、いのちの大切さが分かっていないからだとか、そんなことではない。病気でも、事故でも、自殺でも、同じように精いっぱい生きた命だという初歩レベルのことを宗教者が徹底して共有し、遺族を傷つける発言が無くなるようにするのが大切だと思う」と話す。

同会副代表の中川龍伽・真言宗醍醐派教師（47）＝堺市中区＝は、在家出身で看護師でもある。中川さん自身も2カ月ほど前に、叔父を自死で亡くしたばかりだ。「私が一番早くに生まれた姪で、近所に住んでいたの子どものかわいがってくれた」。その叔父が死の前に会った時、「もう一回会えるとは思わなかった」と喜んでいて。「変なことを言うなあと思ったが、それが最後になるとは思わなかった。遺族の方の話聞き、本当に最後まで分からなかったというのが、今になって分かった」。

10年ほど前に天台宗の千日回峰行成満者から「生きる人を支え、助けるのが仏教」と聞き、僧侶を志した。「仏様が私達を決して見捨てないように、私も自死念慮者や遺族に寄り添っていきたい。また自死者の追悼法要などで祈りを捧げることが、遺された家族を支えることになる」と話している。

**心の居場所つくる 宗教者は精神的救いを**  
浄土真宗本願寺派総合研究所（京都市下京区）の3階に、NPO「京都自死・自殺相談センター」の事務

所がある。発会は2010年。電話相談は年間2千件近く寄せられ、年々増加している。メール相談は専属スタッフが対応し、隔月ごとに自死遺族の「語り合う会」と、自死念慮者が安心して過ごせる「おでんの会」などを開いている。

代表の竹本了悟・本願寺派西照寺住職（37）は「どれがメインということでもなく、死にたいという人、また大切な人を自死で亡くした苦悩を抱えた人の、心の居場所をつくるために取り組んでいる」と説明する。

同会のスタッフには他派の僧侶ばかりでなく、一般人も多い。竹本住職は「私の場合は、阿弥陀仏と出会うことで、誰にも分かってもらえない苦しみ、絶望的孤独から解放されている。この会の活動も、まさに独りぼっちにしない、自分は一人ではなかったという感覚を持ってもらうことで、相談者がかなり安心できる状態に変わる。その姿が、私自身の救いとリンクする」と指摘する。

また同会は、必ずしも自殺防止を目的にしている。「もちろん自然な気持ちとして生きていてほしいが、とことんまで関わって最終的に自ら命を絶たれたならば、その人の最後の気持ちを尊重したい」。

竹本住職は「自死に悪も善もない。環境を整えれば自分自身がそうなるかもしれない。それはあらゆる人に言える。もちろん金銭的、法律的な支援は大事で可能ならばするに越したことはないが、宗教者は精神的な救いが第一義」。

例えば、相談者が行政の窓口や、自殺対策の弁護士などに会うとき、「そこが心の支えになってくれるかと言えば難しい。それでしんどくなって、一緒に来てほしいと言われれば、相談者の百パーセント味方の立場で手続きに伴走する。これこそが僧侶の役割で、宗教的なことだと思っている」。

### 相手に自らの生き方示し 宗教者は徹底的に 対話を／精神科医 野田正彰氏に聞く

精神科医の野田正彰氏は「宗教の問題は『人はいかに生きるべきか』ということに他ならない。いかに生きるべきかを問う中で、自ら死を選んだ人がいる。だから自死・自殺は、宗教者にとって入り口の問題であると同時に、根源的な問題だと思う」と話す。

野田氏が強調するのは、1990年代辺りから精神科医療で薬が多用され、中毒症状を生んできたこ

と。「薬を3、4カ月飲んだら頭の中から苦しみが無くなる、などは考えてみればおかしいと分かるはず。それをおかしいと思わない状況が、この30年くらいでつくられてしまった。人間にとって、苦しみや悲しみは喜びと同じように大事な感情。宗教は苦しみを排除するのではなく、個々の人がその人らしい苦しみを自分で受け止め、それを温めて、生きてもらおうとするものではないか」。

宗教界では、よく「命を大切に」「全ての生命は大切だから、自分の命も大切にせよ」などの言葉が語られるが、「そういう話に矮小化するのではなく、人が何に苦しんでいるのか、本当に死によって解決される問題なのか、それを会話していくことが必要」と強調する。また「自死遺族には、なぜ自分を支えにしてくれなかったのか、という罪の意識が大きい。それを家族にも話せないでいる」と指摘する。

野田氏が宗教者に求めるのは、徹底的に対話することと、自らの生き方を相手に示すこと。「日本では自死・自殺があった場合に穢れた死として忌み嫌う。その一方で、切腹や特攻隊、または自死した政治家などに対して『秘密を墓まで持っていったのは立派だ』などと美化する。この矛盾した二つの文化を超えるには、人がどう生きているか、自分がどう生きているかを語り合い、会話していくことが必要」と言う。

(2015年11月25日付 中外日報) (深層ワイド)

【文責：柴田 初男】



## 各新聞記事から 【2016年1月～3月】

※カトリック新聞、キリスト新聞、クリスチャン新聞については、オンラインで電子版が配信されておりますので、「日本宣教ニュース」での掲載は、前月号から打ち切りとさせていただきます。

- ◇ カトリック新聞  
<http://www.cathoshin.com/>
- ◇ キリスト新聞  
<http://www.kirishin.com/>
- ◇ クリスチャン新聞  
<https://kotobasha.e-manager.jp/>

## 各雑誌記事から 【2016年1月～3月】

### 1月

#### 「百万人の福音」

【特集】聖霊って何だろう？、1. 聖霊の手がかり、2. 聖霊の聖句、3. 沈黙の中で出会う、4. 「大いなる沈黙へ」を見て思うこと、5. 御霊なる神の導きに従って、6. 聖霊とからだ、【旬人彩人】地域コミュニティ「笑恵館」オーナー 田名夢子、【あしあと】小児科医大城久尚史、【連載】1. マンガ ななさんぼ、2. ブルーリボン・レポート、3. この町この教会 泉バプテスト教会、4. 教会津々浦々 兵庫県・愛知県、5. ひきこもり院長のつれづれ日記、6. どうせなら楽しく、7. ひかりの道すじ、8. ふんぷんのこと、一月、9. 方言聖句 in 沖縄、10. 聖書メガネで映画を見れば、11. オリーブの木陰で、12. 風音雨聞、13. こころの整理術、14. 漫画すてきな毎日、15. 漫画喫茶ホーリー、16. 話題の情報 こもればの森美術館、17. 文芸旅人の詩／短歌／俳句、18. クロスワード、19. 明日へのピクニック、20. もぎたてぶどう倶楽部、21. 今月のみことば一句

## 「信徒の友」

**【特集】招き招かれる教会—新来会者を迎えるために** 1. 新しい証人、新しい出来事、2. 対談 若者を教会が受け入れるとは—大人は決意と覚悟を！、3. 迎える準備しています！、4. キリスト教入門講座で礼拝への架け橋を、5. 証し 帰る場所があるのが奇跡／ありのままを許される空気感、**【特別読み物】** 1. ここに教会がある 無牧を支え続けた信徒の力、2. 短期連載 沖縄のいま ウチナーンチュの声に聴く、沖縄は日本に帰るべきだったのか？、3. 青年を育てる国際交流 教誨は若者の派遣を「日独ユースミッション」の実り、**【連載】** 1. 祈り、2. 教会のトピックス—米国のサマーキャンプに被災地の生徒が参加、3. わが家の“わんにゃん！”、4. 献堂しました—北海道・真駒内教会、5. 祈りの大地—エジプト独善と敵意、6. 4コママンガ、7. キリスト教と香りの世界—ジュニパーベリー—の透明石けん、8. 聖なる光と祈りの空間—ドイツ ブラザー・クラウド野外礼拝堂、9. シネマへの招待—『創造と神秘のサグラダ・ファミリア』、10. みことばにきく、11. 預言者の声に聴く、12. あらすじで読むキリスト教文学—三浦綾子『帰りこぬ風』、13. 私のがん体験記 がん哲学外来メディカルカフェ in 播磨代表、14. 伝道推進室だより 部落解放センターだより、15. キリスト教学生寮のいま—九州大学 YMCA 名鳥寮、16. 被災地からの問い—宮城・東北教区被災者支援センター・エマオ、17. マンガキリスト教入門、18. 神に呼ばれて[聖職者編][信徒編]、19. 日毎の糧

## 「福音と世界」

**【特集】聖書とエコロジー** 1. 「キリスト者であること」と「エコであること」—エキュメニカルな視座から見るエコ神学、2. プロセス神学の観点から環境問題を考える、3. 震災とアジア学院—放射能被害からの教訓、4. 原子力発電には妥当性があるのか？—エコロジー—経済学と社会的公正の視点から、5. 『讚美歌21』と環境問題、6. 『オン神学(Ohn Theology,)』(上)翻訳・ナグネ(洛雲海)、7. 書評堀江有里著『レズビアン・アイデンティティーズ』、8. 精神の自由を貫く—「君が代」裁判とは何か、**【新連載】** 1. 聖書素読1 連帯に歩み出そう、2. 聖書とわたし1 聖書の中の一つの風景と一つの警告に思う、3. 消しゴ点画1 月曜日の遠回り、**【連載】** 1. レヴィナスの時間論『時間と他者』を読む10、2. カナダ教会通信7 社会正義を求めて(二)、3. 宣教学・事始め9 宣教Aの仕事を分業す

る、4. CHRISTIAN ICON キリスト教美術案内10 主の降誕、5. 佐藤優のことばの履歴書22 トルコによるロシア機撃墜、6. 南島キリスト教史入門15 引き継がれる祈り ハンセン病療養所と宮古島のキリスト教、7. 詩編の思想と信仰131 詩編125篇、8. 表紙画について

## 「舟の右側」

**【特集】東北にあらわれる神の御業** 1. 被災地から「日本宣教」を考える アジアンアクセス・ジャパン全国大会、2. 「普通に」寄り添い、共に歩む 東松島アメイジング・グレイス支援センター、**【新年メッセージ】**正義の住む新しい天と新しい地を待ち望む、**【特別寄稿】**王子にキスをしてもらいましょう、**【新連載】** 1. からの器 暦のかわる頃に、2. 焚き火を囲んで聴く神の物語 焚き火を囲んで天地創造、3. 一筋に「キリストの福音」を語る 説教と教会の危機、4. 霊的成熟を目指して 霊的成熟とは？、5. みことばの宝石箱 イエスの母マリヤ、**【連載】** 1. 聖書に見る神の国の福音 神の国とサタンの国、2. 主に新しい歌を歌え「風に乗って」、3. ジャンル別新約聖書解釈入門 黙示文学①、4. 風知一筆、5. 詩編91篇4節、6. 一押し書評 『隠された恵み』フィリップ・ヤンシー

## 「HAZAH」

**【特集】9つの賜物** 1. イントロダクション、2. 宮古島の教会の恵みの歩み、3. 癒しの証し 7つの証セレクト、**【新連載】** 見えるマクロの世界と見えないミクロの世界の探求—創造者の紙と量子論、1. ダビデの幕屋の回復—二つの柱 御言葉の朗読と実行、2. 創造と福音—命の血液を動かす仕組み・肺臓、3. 聖書翻訳こぼれ話⑤信仰に生きる、4. 神のことばを取り次ぐ 怒りの永遠化の否定、5. 清水・市民ホール ラップランドトリオコンサート、6. カトリックの聖霊刷新、7. イエスの花嫁紹介 南吉成キリスト教会、8. 愛とロマンの地へ—出発前の感動—、9. きよくなるための唯一の道

## 「福音宣教」

**【年間特別企画】** 証の人 ユスト高山右近—列聖列福に向けて① 今、高山右近を取り上げる意義と列福への動きの現状報告—レンゾ・デ・ルカ師に聞く、**【新春特別エッセイ】**母が教えてくれた信仰、**【月間テーマ】** 1. 喜びに生きる—使徒パウロから学ぶ、2. ミサの準備と振り返り、3. 館林教会のミサの輝き—ホセ・



アリヨ・グティエレス師に聞く、【連載】 1. [新連載] 「真の喜び」に出会った人々①教会がないと生きていけない？、2. [新連載] 聖フランシスコの「清貧」の精神と現代社会①個人の心の平和、3. [新連載] 重なりあう軌跡・響きあう信仰—近世フランス史への招き① 近世フランスの宗教と地理、4. [新連載・司祭リレー連載] 生活の中に福音が響く①—神の母聖マリア～年間第4主日 イエスさまはいつもすぐそこに、5. [新連載] 主に向かって新しい歌を歌おう—モーツァルトの音楽に伴われて① モーツァルトの音楽って宗教的なの？、6. 新年に寄せて 神のいつくしみに気づく コンスタンチノ・コンニ・カランバ、7. この一冊 田澤雄著作『メディアに むしばまれる子どもたち』

### 「福音と社会 No. 283」

1. 聖書の言葉：期待の民、2. 鐘楼：真の「ソウセイ」とは、3. カトリックアイ：＜政治＞ 「改憲」へ外堀を埋める政権の深謀を暴く、＜社会＞神に嘉された人命を尊ぶ発想を伝えよう、4. 誌上採録：社研勉強会 カトリック社会教説の意義、5. 潜入取材ルポ+直撃インタビュー 注目の「晴佐久神父」が実践する“開かれた教会”と“福音宣言”を知った、6. 読者の考察 画期的な「戦後70年司教団メッセージ」、7. 紹介・心に残る映画「インサイド・ヘッド」寓話タッチで描き尽す感情と心の葛藤のからくり、8. 祖母と孫が語り合う「戦争と平和」③④ 若い日、誤診で隔離されたのを奇禍として、ハンセン病施設看護師になった女性の生き方、9. 連載ノンフィクション 封印された殉教③④ バチカンと戸田師と憲兵と(四)、10. カトリック社会問題研究所の使命 慢性的低迷からの回復・発展を夢見て考える

## 2月

### 「百万人の福音」

【特集】心の痛みに寄り添う—精神障害と教会—

1. 「精神疾患」って何？、2. 精神疾患の分類、3. 精神障害と教会、4. シンプルライフという生き方、5. 精神障害・疾患への対応、【旬人彩人】元プロテニスプレーヤー、錦織圭選手のコーチマイケル・チャン、【あしあと】アシュラムセンター主事、「ちいろば先生」こと榎本保郎の妻 榎本和子、【連載】 1. マンガ

ななさんぼ、2. ブルーリボン・レポート、3. この町この教会 筑西キリスト教会、4. 教会津々浦々 岐阜県・兵庫県、5. ひきこもり院長のつれづれ日記、6. どうせなら楽しく、7. ひかりの道すじ、8. ふんぷんのこと、二月、9. 方言聖句 in 沖縄、10. 聖書メガネで映画を見れば、11. オリーブの木陰で、12. 風音雨聞、13. こころの整理術、14. 漫画すてきな毎日、15. 漫画喫茶ホーリー、16. 話題の情報 フィリピン宣教地体験旅行、17. 文芸旅人の詩／短歌／俳句、18. クロスワード、19. 明日へのピクニック、20. もぎたてぶどう倶楽部、21. 今月のみことば一句

### 「Ministry」

【特集】ボクシたちの失敗「しくじり」を教訓に、【シリーズ・21世紀の神学の扉「インターカルチャーの神学」】伏井・マッキントッシュ・眞紀、【超教派神学バラエティ】「アーメントーク」抄録、【グローバル・エキュメニズムからの便り】「コミュニオン」の本質とは何か、【教会教育最高高齢者との関わりから】旧約聖書と新約聖書の関係、【礼拝「ことば」学ゼミナール】黙祷・沈黙、【説教鑑賞】アーメン！アーメン！アーメン！、【ワタシの礼拝論】礼拝改革試論(6)～聖餐のシェイプアップ(その2)、【“中堅”説教者奮闘記】若い聴き手を見下さず「権威」を持って語る、【海外 TOPICS】中国教会探訪 北京、【マンガ「こちらミニスト編集部」】僕たちの失敗、【リレー連載・牧会日誌】牧師たちの日常、【緊急ルポ】常総市水害被災体験記、【電腦牧師に訊く IT 活用術】携帯端末で連携牧会をしよう、【雑誌拾い読み】『信徒の友』『福音と世界』『カトリック生活』ほか、【新刊さんいらっしやい】『すてたもんじゃない』ほか、【専門書店売り上げランキング】10～12月のベスト10、【掲示版 読者からの手紙】、【シネマ黙想】『サウルの息子』『大地を受け継ぐ』『十字架』ほか、【絵本の中から響く声】『きらめく船のあるところ』、【空想神学読本】「千と千尋の神隠し」にみるヘブライ語聖書の「陰府」観

### 「季刊 教会」102号

【巻頭論壇】キリストの兵士として立とう、【QK論文】 1. 「道徳の教科化」をめぐるって - キリスト教学校で聖書を教える方の為に -、2. 日本伝道のヴィジョン - 地域長老会形成を通して考える、3. 青年伝道について、4. 救済への問いその

2(日本人の共同幻想)【御言葉の味わい(19)】1. 旧約篇(雅歌)、2. 新約篇(ガラテヤの信徒への手紙)、【QK 随想】1. 開拓伝道から70年の歩みとこれからの教会の課題、2. 会堂改修工事顛末記(大磯教会の場合)、3. 新幹線とキリスト教の関係とは?、4. オーマイワIFE、【ウェストミンスター大教理問答リレー黙想】第186問-187問、第188問-189問、【本のオアシス】<わたしを変えた一冊>高倉徳太郎著『福音的基督教』、<本の道しるべ(ブック・レビュー)>、1. 植村正久著『福音 道しるべ』、2. W・ブルグマン著・吉村和雄訳『詩編を祈る』、3. L・フィッシャー著「長老職」、4. 袴田康裕著『ウェストミンスター小教理問答』、5. 日本基督教団讃美歌委員会編『こどもさんびか改訂版略解』、【聖書霊解】1. コリントの信徒への手紙二13:1-4、2. コリントの信徒への手紙二13:5-13、【海外ニュース】中港矛盾と香港教会、【牧会九一話】信徒伝道～一人が一人を伝道する～

### 「信徒の友」

【特集】信教の自由を守る一神の共同体の一員として、1. 自由な礼拝と自由な伝道のために、2. 中国の教会と信教の自由 無神論を標榜する国家の中で、3. 四国教区・東予分区の取り組み 信仰や思想を自由に表現する社会を、4. 証し「異なるもの」への迫害に抗う一朝鮮学校無償化排除から考える/私として生きるための自由-「君が代」強制に抵抗して、5. 憲法20条を再考する、【特別読み物】1. パリ同時多発テロを受けて イスラムの神学者はどこにいるのか、2. 短期連載 沖縄のいま ウチナーンチュの声に聴く 沖縄と共に福音を告げ知らせる/祈りと犠牲をささげる、【連載】1. 祈り、2. 教会のトピックス-埼玉・羽生伝道所「伝道所が立ち上げた NPO」、3. わが家の“わんにゃん! ”、4. 献堂しました-神奈川・大塚平安教会、5. 祈りの大地-エジプトのギリシャ正教、6. 4コママンガ、7. キリスト教と香りの世界-オリーブオイルのハンドクリーム、8. 聖なる光と祈りの空間-ドイツ 和解の礼拝堂、9. シネマへの招待-『ロイヤル・コンサートへボウ オーケストラがやってくる』、10. みことばにきく、11. 預言者の声に聴く、12. あらすじで読むキリスト教文学-三浦綾子『病めるときも』、13. 私のがん体験記 がん哲学外来メディカルカフェ参加者、14. 伝道推進室だより 部落解放センターだより、15.

キリスト教学生寮のいま-東京・シオン寮、16. 被災地からの問い-栃木・西那須野教会、17. マンガキリスト教入門、18. 神に呼ばれて[聖職者編][信徒編]、19. 日毎の糧

### 「福音と世界」

【特集】聖書と文学 1. 聖書はどこにあるのか、2. 多様な読みを楽しむ一文芸批評的アプローチ、3. 贖いの力と生きる勇気-小説『ギレアド』について 『ギレアド』より一部抜粋、4. キリスト教文学はキリスト者のものか、5. 韓国神学の新しい潮流『オン神学(Ohn Theology)』(下)、6. 「福音を生きる」可能性への誘いとして一本田哲郎氏の「キリスト教を卒業しなければ」への応答、【新連載】1. 聖書素読2 光の花、2. 聖書とわたし2 卑怯だった自分を思い出す、3. レヴィナスの時間論『時間と他者』を読む1、4. ドイツ教会通信7 子どもを招く教会の苦勞、5. 宣教学・事始め10 イベント企画の場合、6. CHRISTIAN ICON キリスト教美術案内11 旅する教会、7. 佐藤優のことばの履歴書23 植民地担当相、8. 南島キリスト教史入門16 「周縁的伝道地」の形成の喜界島のキリスト教(1)-ホーリネスの伝道者・兼山常増の軌跡、9. 詩篇の思想と信仰132 詩篇126篇、10. 消しゴム点描2 はじまりの夕暮れ、11. 新約釈義 第一コリント書19(1:10-17)、12. 表紙画について

### 「舟の右側」

【インタビュー】立ち止まらない「イスラエル」、【特別寄稿】「雨にも負けず」とクリスチャン、【シリーズ】教会と教会堂 日本アライアンス教団千葉キリスト教会、【新連載】東風吹かば 平凡を生きる、【連載】1. からの器 支えられて支える、2. 焚き火を囲んで聴く神の物語 アダムにも涙、3. 一筋に「キリストの福音」を語る 福音の本質、4. 聖書に見る神の国の福音 神の国の完成、5. 霊的成熟を目指して 霊的成熟のスタートと壁、6. ジャンル別新聖書解釈入門 黙示文学②新約の「黙示録」を読みましよう!、7. みことばの宝石箱「アンナとシメオン」、風知一筆 ルーティンと自由、ローマ8章32節

### 「HAZAH」

【特集】9つの賜物②異言 1. 異言の恵みと神の力、2. 聖霊の満たしと異言、3. 父なる神と聖霊の会話、【連載】1. イエスの花嫁紹介 献堂に至る証し、2. 見えるマクロの世界と見えないマイクロの世界の探求②

—創造者の神と量子論、3. イスラエルの歴史と聖書の預言、4. 聖書翻訳こぼれ話⑤ 聖書翻訳者の特権と喜び—、5. ビルジョンソン聖会 天の御国はすでに来ている、6. ジーザスレインズ、7. ザ・ユール 「聖霊の炎が再び下る時」、8. 神のことばを取り次ぐ 恵みと平安のある日々を！、9. ダビデの幕屋の回復～王権を持ち始める～、10. カトリックの政令刷新後半、11. 愛とロマンの地へ いざ、出陣、12. あなたの戦いを取り戻すこと

### 「福音宣教」

**【巻頭言】** バトンをつなぐ者として、**【年間特別企画】** 証の人 ユスト高山右近—列聖列福に向けて② 対談 父ダリオとともに レンゾ・デ・ルカ×五野井隆史、**【オリエンズ・セミナー】** 近代日本とカトリシズムの霊性—岩下壮一・吉満義彦・越知保夫・遠藤周作①、**【フォーラム】** 『クラウス・リーゼンフーバー小著作集』の全巻刊行を記念して、**【月間テーマ】** いやしの喜び 1. 患者さんから教えられる日々、2. 「いやしのためのミサ」への招き、3. 出会いの神秘に導かれて—いやしのミサへの歩み、**【連載】** 1. 真の喜びに出会った人々②殉教者が示す人間としての生き方、2. 聖フランシスコの「清貧」の精神と現代社会②人間社会における平和(1)—戦争について、3. 重なりあう軌跡・響きあう信仰—近世フランス史への招き①近世フランスにおけるカトリシズムの特徴、3. [司祭リレー連載]生活の中に福音が響く②—年間第5主日～四旬節第3主日 「回心」を支える神さまを信じて、4. 主に向かって新しい歌を歌おう—モーツァルトの音楽に伴われて②聴くことと宗教的体験

### 「礼拝と音楽 168号」

**特集：礼拝の中の説教**、1. 対談：「説教」か「礼拝」か 説教と礼拝学の共働をめざして、2. 礼拝と説教 - 神学教育の場から説教を考える、3. 礼拝における説教理解と役割の変遷 - ケリュグマからパウロ説教へ、4. カトリック教会の説教 - 2014年の「説教指針」に至る歩み、5. 説教と讃美歌、6. 説教者と奏楽者 - それぞれの立場から礼拝を考える、◇特別寄稿：ボヘミアの宗教改革とフスの賛美歌、◇連載：1. 読書案内、2. ルターと賛美歌 (12)、3. 礼拝とシンボル (7)、4. 主に向かって “新しく” うたおう！ (2)、5. 歌おう使おう21、6. 教会音楽ジャーナル、7. 主日礼拝に備えて - 説教者・奏楽者とともに

## 3月

### 「百万人の福音」

**【特集】** 茨城 キリスト教の旅、1. 茨城街歩き、2. 茨城キリスト教大学、3. 徳川ミュージアム、4. 宍戸のマリア、5. 山下りんの生涯、6. 喫茶フラーレン、7. 茨木の地で種をまく、8. 災害から立ち上がる、9. 筑波キングス・ガーデン総合施設長、10. 茨木のキリスト教、**【旬人彩人】** 陶芸家山路和夫・寿子、**【あしあと】** 合志教会名誉牧師 緒方一誠、**【連載】** 1. マンガ ななさんぽ、2. ブルーリボン・レポート、3. この町この教会 足尾キリスト教会、4. 教会津々浦々 岐阜県・島根県、5. ひきこもり院長のつれづれ日記、6. どうせなら楽しく、7. ひかりの道すじ、8. ふんぷんのこと、三月、9. 方言聖句 in 沖縄、10. 聖書メガネで映画を見れば、11. オリーブの木陰で、12. 風音雨聞、13. こころの整理術、14. 漫画すてきな毎日、15. 漫画喫茶ホーリー、16. 話題の情報 庭で伝える聖書の世界、17. 文芸旅人の詩／短歌／俳句、18. クロスワード、19. 明日へのピクニック、20. もぎたてぶどう倶楽部、21. 今月のみことば一句

### 「信徒の友」

**【特集】** 十字架と和解—今日的な課題から考える、1. 赦された者としての務め、2. ≪証し≫対話をもたらす真の和解 世界の現実から見えてくるもの—キング牧師ら和解の使者、そして私たち／和解のミニストリーのために働いて—イスラエルとパレスチナの隔ての壁を越える、3. 映画に見る「和解」のストーリー、**【特別読み物】** 1. ここに教会がある 創立100周年、地域に根ざす病院と共に、2. 井上洋治著作選集完結記念座談会 神さまのあたたかさを伝えた人、3. 短期連載 沖縄のいま ウチナーンチュの声に聴く 部落解放沖縄キャラバンから考える差別問題、4. 5年目の3.11に東日本大震災を覚えて祈る—「日本に癒しをもたらすための十字架の道行」、**【連載】** 1. 祈り、2. 教会のトピックス—日本ナザレン教団花園キリスト教会「地域の教会水族館」、3. わが家の“わんにゃん! ”、4. 献堂しました—神奈川・東戸塚教会、5. 祈りの大地—エジプトのシナイ、6. 4コママンガ、7. キリスト教と香りの世界—ラベンダーの化粧水、8.

聖なる光と祈りの空間—東京信愛教会、9. シネマへの招待—『火の山のマリア』、10. みことばにきく、11. 預言者の声に聴く、12. あらすじで読むキリスト教文学—三浦綾子『貝殻』、13. 私のがん体験記が哲学外来メディカルカフェ参加者、14. 伝道推進室だより 部落解放センターだより、15. キリスト教学生寮のいま—札幌聖ミカエル国際青年寮、16. 被災地からの問い—福島・会津放射能情報センター、17. マンガキリスト教入門、18. 神に呼ばれて〔聖職者編〕〔信徒編〕、19. 日毎の糧

### 「福音と世界」

【特集】特集：聖書と暴力、そして平和 1. 旧約聖書における暴力と平和—旧約聖書は戦争をどう物語っているか、2. 聖戦と平和—聖書に脈打つ平和のベクトル、3. 女たちの哀歌、4. イエスと非暴力—非暴力実践としての「癒し」、5. 報復から赦しへ—「修復的正義」と聖書の平和のヴィジョン、6. 女性への暴力、その現状と支援—矯風会ステップハウス・松浦薫さんに聞く、

【新連載】新約釈義 第一テモテ書1(1:1-2)、

【連載】1. 聖書素読3 独立精神の揺りかご、2. 聖書とわたし 3 “正義”のコペルニクスの転回、3. カナダ教会通信 8 変わりゆくものと変わらないもの、4. 宣教学・事始め 11 いろいろな人が関わる、5. CHRISTIAN ICON キリスト教美術案内 12(最終回)復活と希望、6. 現代日本の福音(エヴァンゲリオン)17 『創聖のアクエリオン—虚空の天翅—』、7. 佐藤優のことばの履歴書 24 自然の神学、8. 南島キリスト教史入門 17 「周縁的伝道知」の形成と喜界島のキリスト教(2)—磐井静治の帰還と旧日基の伝道、9. 詩篇の思想と信仰 133 詩篇 127 篇、10. 消しゴム点描 3 放課後に農園で、11. 表紙画について

### 「舟の右側」

【特集】「靈的形成」を知る 1. 燃え尽きと、その回復から学んだこと、2. 「荒野」を経て生まれた「川ミニストリー」、3. 燃え尽きを体験したジョン・ヒューレット宣教師、4. キリストに似た者となる「内面の変容」、

【連載】1. 焚き火を囲んで聴く神の物語 たき火を囲んで、族長ぞくぞく、2. 東風吹かば「自己実現」の逆説、3. 一筋に「キリストの福音」を語る 福音の実り、4. ワーシップ「花も」、5. 靈的成熟を目指し

て 神のことばを聴く、6. 一押し書評『ぼくはいかにしてキリスト教徒になったか』内村鑑三著、7. ジャナル別新聖書解釈入門 黙示文学③新約の「黙示録」を読みましよう！8. みことばの宝石箱 マリヤとマルタ、9. 風知一筆 感情を見つめる、10. マタイ6章30節

### 「HAZAH」

【特集】9つの賜物③預言 1. 奇跡の旗ベテル教会とモーニングスター教会訪問、2. 預言の訓練の実際、3. 終末の時代にもっとも必要な「知恵と啓示の霊」、【連載】1. 創造と福音 種類にしたがって 2. 聖書翻訳こぼれ話し⑤たった一つの言葉との苦闘、3. ダビデの幕屋の回復 ~岩の上に建てられた栄光の教会、4. 宣教に燃える若い力、5. 首都を縛る靈的トライアングル、6. 殉教の地大分(豊後)、7. 韓国ギャザリングへの旅路、8. 愛とロマンの地へ—約束の成就—、9. 神の召し、危機的大問題、そしてその解決法

### 「福音宣教」

【巻頭言】原点、【年間特別企画】証の人 ユスト高山右近—列聖列福に向けて③ 対談 開かれた信仰 レンゾ・デ・ルカ×五野井隆史、【オリエント・セミナー】近代日本とカトリシズムの靈性—岩下壮一・吉満義彦・越知保夫・遠藤周作②、【フォーラム】喜びに心はずませ祈ろうよ歩こうよ、【月間テーマ】1. 神の悲しみと喜びに触れられて、2. キョウカンとタツカン—喜びの国へ旅立つ二つの翼、3. 「ともに悲しみ、ともに喜ぶ」土台—野崎論文への応答として、【連載】1. 「真の喜び」に出会った人々③友のために生命を捨てる、2. 聖フランシスコの「清貧」の精神と現代社会③人間社会における平和(2)—所得格差について、3. 重なりあう軌跡・響きあう信仰—近世フランス史への招き③近世フランスの兄弟会、4. [司祭リレー連載]生活の中に福音が響く③—四旬節第4主日～復活の主日 神の思いは私たちの思いをはるかに超える、5. 主に向かって新しい歌を歌おう—モーツァルトの音楽に伴われて③過ぎ越すこと



## 各教団・教派、宣教団体の 機関紙・ニュースから

### 1月

#### 「教団新報 NO. 4834 1/30」 (日本基督教団)

1. 新春メッセージ：神の栄光を見た、2. 東日本大震災被災地のクリスマス：①エマオ石巻、②エマオ仙台、③ハートフル釜石、3. 教師委員会、4. 宗教改革500周年記念事業準備委員会、5. 日本基督教団と在日大韓基督教会との教職者人事に関する協議会、6. 日本基督教団・在日大韓基督教会 第17回歴史共同研究委員会、7. 宣教師からの声（番外編）、8. 人ひととき

#### 「キリスト教学校教育 NO. 690 1/15」 (キリスト教学校教育同盟)

1. キリスト教学校教育懇談会第13回講演会：キリスト教学校がめざすもの―道徳の教科化にどのように対応していくのか―、2. 第57回学校代表者協議会 ①主題：キリスト教学校教育同盟は、今何を為すべきか―一次の世代を見据えて―、②主題を受けて学校種別のグループ別討議発題、3. 関東地区 第32回地区中高研究集会 I C U高校のグローバル化の取り組み、4. 公報実務委員会、5. キリスト教Q&A

#### 「世の光 NO. 784」 (日本同盟基督教団)

1. 教会は全地にわたり、2. 青年部：『友よ歌おう』と青少年宣教 松原湖研修会報告、3. 宣教研究所：ローザンヌ運動40周年企画 ローザンヌ宣教運動と西大寺キリスト教会、4. 教会支援部：教師派遣制度の感謝報告、5. 信望愛：宣教120周年を迎えて 神岡キリスト教会、6. 教団史編纂委員会：今読みたい「スカンデナヴィア人宣教師の日本伝道事始」、7. 人格尊厳・セクハラ防止相談委員会：セクハラは普通の中にある、8. 教会紹介：丸山聖書教会、戸坂聖書教会、9. 恵流：主人に起きた奇跡、10. 教団ニュース、11. 信仰告白：我らは信じ、告白する 教団信仰告白の開設その⑩、◇国内宣教NO. 182、1. 私たちとともに働かれる宣教の主、2. 新年の抱負：①盛岡みなみ教会、②宮崎めぐみ聖書教会、③山形恵みキリスト教会、④光の森聖書教会、⑤近江聖書教会、⑥十

勝めぐみ教会、3. 盛岡開拓の恵み、4. 「三重が見えてくる」、◇ 国外宣教 NO. 467、1. 軍事作戦が平和をもたらすだろうか？、2. 地域福祉と教会、3. マイワ語聖書翻訳、4. 宣教師近況・祈祷課題

#### 「JHC Revival 807号」 (日本ホーリネス教団)

1. 「福音を喜び、信仰に生きる」、2. 「視」過去を、今を、未来を、3. ネヘミヤプロジェクトのこれから 世界に仕える教団・学院・教会、4. 宣教を考える：教育局―その④ 説教を学ぶ喜びと使命、5. 温故知新：千葉教区の源流を尋ねて（後編）、6. 明日への種まき：千葉教区における取り組み、7. 特集：新春メッセージ、8. 女性教職者と牧師夫人の会、9. 総務局だより、10. 聖書から見た人間・人格の尊厳、11. 教育局だより、12. YOUTH J AM. 2016、13. 教団本部ニュース

#### 「イムマヌエル教報 NO. 834」 (イムマヌエル綜合伝道団)

1. ペテロの驚き！主の驚き！、2. 期待と展望、3. 献堂式 富士見台教会、4. YSBリトリート報告 「めんどくさい」と、どう付き合う？、5. 読書の広場、6. 教団創立70周年青年大会を振り返り：全国アンケートの考察と提言5 結婚をどう捉えるか、7. 追憶：故加藤一男先生、国内教会局から：信頼関係 思いと言動、◇広げた翼：世界宣教局：台湾、カンボジア、ケニア・テヌウェク、ボリビア、8. 聖宣神学院報、9. 公報・消息

#### 「JCC Jtimes NO. 758」 (日本イエス・キリスト教団 時報)

1. 聖霊によって、2. ビジョン 2021、3. 協力教会制度：「誰の」教会か―継続性を有する教会間協力―、4. 教区だより：①北海道地区、②東北教区、③信越教区、④大阪地区、⑤九州地区、5. ～シエマ教育 セミナー視察記～、6. 公報・消息

#### 「アッセンブリー News NO. 724」 (日本アッセンブリーズ・オブ・ゴット教団)

1. 御霊による輪、愛の広がり―力を受け、宣べ伝える、2. 教団総会報告、3. 2016年度教団人事、4. 最後まで忠実な牧師であった相原健二先生、5. 中央聖書神学校(CBC) 掲示板、6. 祈り特集 祈

りを積み上げる、7. 新・祈りのコラム⑱、8. 栄養士から見た心と体の健康 Vol. 6

## 2月

### 「教団新報 NO. 4835 2/20」 (日本基督教団)

1. 東北教区放射能問題支援対策室「いずみ」、2. 救援対策本部会議、3. 教師検定委員会、4. 教師委員会、5. 世界宣教委員会《宣教師派遣式》、6. 年金局理事会、7. 消息、8. 宣教師からの声(番外編)、9. 人ひととき

### 「世の光 NO. 785」 (日本同盟基督教団)

1. 伝道第一の教団に、2. 宣教研究所：ローザンヌ運動40周年企画 ローザンヌ宣教運動と西大寺キリスト教会、3. 家庭教育部：聞くことから始まる奉仕、4. 教職教育部：2015年11月10～15日「教職夫人の集い」の報告、5. 東北宣教プロジェクト：ウェブサイトでもつながりましょう！、6. 献堂の恵み：衣笠中央キリスト教会、◇となり人社会厚生部だより 第60号、1. 愛される力、2. 心と体を良く保つために(42号)、3. 教会の防災対策、4. 私の心とからだの健康法、◇国外宣教 NO. 468：1. ブラジル訪問の恵み、2. 日本に向かうまなざし、3. 病めるときも、4. 宣教師近況・祈祷課題

### 「イマヌエル教報 NO. 835」 (イマヌエル総合伝道団)

1. あなたは×で、私は○、2. 第71次年会 課題克服のために、3. BTC リトリート「冬の聖会」主の召しに応じて 献身・召命・職業選択、4. 教団創立70周年 青年大会を振り返り 全国アンケートの考察と提言6、5. 関東4教区合同新年聖会、6. 海外トピックス、7. 国内教会局から、8. eラーニング信徒講座、9. 国内教会局スクエア、10. 燈台 路線バスの旅、11. 公報、◇広げた翼：世界宣教局、①ボリビア、②ケニア・テヌウェク、③台湾、④ザンビア、◇聖宣神学院報、1. 布石～「私は」の目線、2. 神学エッセー：説教について考えよう1、3. 学びを締め括るにあたり、4. 私の神学生時代、5. 同窓生の近況、6. 神学院スタッフ：恵みの想起

### 「JHC Revival 808号」 (日本ホーリネス教団)

1. 「涙をもって種をまく者は」、2. 「視」～過去を、今を、未来を～、3. 世界に仕える教団・学院、4. 宣教を考える：東京聖書学院―その①、5. 温故知新：東京東部教区の源流を尋ねて、6. 東京聖書学院特集：『ミッション生受け入れ教会の恵み』、7. 次世代育成プロジェクト報告、8. 総務局だより、9. 宣教局ニュース：国外宣教、10. 宝支局だより、11. 教団本部ニュース

### 「JCC Jtimes NO. 759」 (日本イエス・キリスト教団 時報)

1. 生ける望みと輝きに満ちた喜び、2. ビジョン2021 献身への主の招き、3. 協力教会制度、4. 教区だより：①東北教区、②関東教区、③京都教区、④大阪教区、⑤兵庫教区、5. 公報・消息

### 「アッセンブリー News NO. 725」 (日本アッセンブリーズ・オブ・ゴット教団)

1. 知るべきこと、2. 教団の動き66、3. 理事長便り、4. 中央聖書神学校(CBC) 掲示板、5. 特集：青少年伝道、6. 特集：震災から5年目を迎えて①、7. 信徒が学ぶギリシャ語：第5回、8. 新・祈りのコラム⑲「お祈りします」、9. 三浦綾子の作品から学ぶ信仰①

## 3月

### 「教団新報 NO. 4836-7 3/12」 (日本基督教団)

1. 第39総会期 第5回 常議員会、2. 世界宣教委員会、3. 信仰職制委員会、4. 宣教研究所委員会、5. 予算・決算委員会、6. 教育委員会、7. 伝道のともしび、8. 第30回外キ協全国協議会、9. 人ひととき

### 「キリスト教学校教育 NO. 691 3/15」 (キリスト教学校教育同盟)

1. 時代の担い手としてのキリスト教学校、2. 2015年度教研中央委員会 16・17年度教研テーマを策定、3. 加盟校アンケート集計「キリスト教学校教育」紙について、4. 日韓キリスト教学校のさらなる連帯を 韓国基督教学校聯盟 第53回総会、5. キリスト教教育者物語38

## 「世の光 NO. 786」

(日本同盟基督教団)

1. 御霊と知恵と評判と、3. 宣教研究所：ローザンヌ運動40周年企画 総括と今後の教団宣教、3. 教団ニュース、4. 選挙管理委員会：理事選挙の被選挙人の紹介、◇国内宣教 NO. 183、1. あなたは、生ける神の御子キリストです、2. 宣教区レベル開拓：①三重開拓、②鹿児島開拓、③徳島開拓、3. キャラバン隊員派遣をぜひご検討を！、◇東北宣教プロジェクト NEWS No. 6、「3. 11 6年目の始まり」、◇国外宣教 NO. 469、1. マイワ語聖書翻訳、2. 嬉しい洗礼式、3. 新宣教師（候補者）紹介、4. 宣教師近況・祈祷課題

## 「イムヌエル教報 NO. 836」

(イムヌエル総合伝道団)

1. 聖なる教会をめざしてーハラスメントを題材としてー、2. 第71次年会を迎えて「しかし」を生きる、3. イースターの霊想 いのちを祝うイースター、4. 教団運営委員会から：新年度に取り組む課題を決定しました、5. 近畿教区CS教師講習会：クリスチャン・ホーム生徒の信仰形成、6. 東京教区デーの恵み：CSセミナーと交わりの会、7. 海外トピックス、8. 国内教会局から、9. 教団創立70周年 青年大会を振り返り 全国アンケートの考察と提言7、10. 燭台：ホーリネスの証人に、11. 公報、◇広げた翼：世界宣教局 信仰の交わりの拡大を、1. 台湾、2. 香港、3. ボリビア、4. ケニア・テヌウェク、◇聖宣神学院報：1. 生き方の総括、2. 神学エッセー：説教について考えよう2、3. 信徒土曜講座を受講して、4. 同窓生の近況、5. 神学院スタッフー恵みの想起、6. 学苑だより

## 「JHC Revival 809号」

(日本ホーリネス教団)

1. 「変えられていくというしあわせ」、2. 「視」～過去を、今を、未来を～、3. ネヘミヤプロジェクトのこれから 世界に仕える教団・学院・教会、4. 宣教を考える：東京聖書学院ーその②「宣教はしないでください」、5. 温故知新：東京西部教区の源流を尋ねて、6. 明日への種まき：東京西部教区における取り組み、7. 2015年度全国新年聖会報告：①第15回東京新年聖会、②第15回神奈川教区新年聖会、③静岡教区新年聖会、④近畿教区新年聖会、⑤四国教区新年聖会、8. 慰安婦問題の決着を癒しへ、9. 宣教局ニュース（国

外宣教)「宣教師リトリート」、10. 教育局だより：「生協氏志願者研修会に参加して」、11. 追悼 故山口明雄牧師を御国に送って、12. 東京聖書学院信徒コースのご案内、13. レイマンの声：東京聖書学院での学びとチャレンジ、14. 教団本部ニュース

## 「JCC Jtimes NO. 760」

(日本イエス・キリスト教団 時報)

1. 主への誠意、2. ビジョン2021、3. 協力教会制度、4. PCT宣教協議会、5. 教区総会報告(前篇)：①東北教区、②関東教区、③信越教区、④京都教区、⑤大阪教区、⑥兵庫教区、⑦四国教区、6. 公報・消息

## 「アッセンブリー News NO. 726」

(日本アッセンブリーズ・オブ・ゴット教団)

1. 主イエスの十字架の死と復活、2. 教団の動き(67)、3. 中央聖書神学校(CBC)掲示板、4. 特集：震災から5年目を迎えて②、5. イースター特集：天国への希望、6. 特集：祝・CAの日(1月11日)、7. 新・祈りのコラム②⑩、8. 栄養士から見た心と体の健康 Vol. 7

## 「JECA フォーラム NO. 97」

(日本福音キリスト教会連合)

1. クリスチャンホーム建設を目指して、2. 特集・中部地区の宣教と交わり：①一宮福音教会、②自由ヶ丘キリスト教会、③栄聖書教会、④朝日聖書教会、⑤栄光聖書教会、⑥豊田聖書教会、⑦春日井聖書教会、⑧希望キリスト教会、⑨揖斐キリスト教会、⑩北方キリスト教会、⑪春日井福音キリスト教会、⑫久居聖書教会、⑬上社福音キリスト教会、⑭新湊キリスト教会、⑮津豊ヶ丘キリスト教会、3. 福利厚生年金に加入しよう！



## キリスト教大学・神学校の ニュースから

### 1月

#### 「聖契神学校 125号」

1. ザカリヤとマリヤ」、2. 激動する世界で真の福音に生きるために、3. 神学校の教室から：①現代を生きる私たちの「信仰」、②仕事と学びの両輪で、③10年目の学び、4. 新設クラス紹介「世界と教会」、5. 学生会だより、6. スクールレポート、7. ご案内

#### 「OBI お茶の水聖書学院 NEWS 第44号」

1. 『OBI のモットーと理念に立って』、2. 2016年度聖書科カリキュラム、3. 2016年度音楽科カリキュラム、4. 公開講座：①「聖書を読んだサムライ達」、②教会音楽デー、③秋のコンサート、5. 学窓トピックス

### 2月

### 3月

#### 「聖書宣教会通信 161号」

11. 「期待と覚悟」、2. 聖書神学舎から、3. 「聖書は誤りなき神のことば」～シカゴ声明再考～（その2）、4. 2016年度 聖書宣教会講座案内、5. 2016年度 聖書宣教会主要年間予定

#### 「神戸ルーテル神学校 136号・ 後援会ニュース 124号」

1. 教会の神学校、2. 「今宗教改革500周年、神戸ルーテル神学校勝率60周年、AGST 開校30周年を前に」、3. 2016年度クリスチャンライフエンjoyセミナーご案内、4. 最後のアーメン、5. 真プロジェクトの紹介、6. ファンドレイジング委員会活動紹介、7. 第1回グッドジョブセミナー、8. 第4回国際神学シンポジウム、9. 「ポストセメスター」、10. 図書館だより、11. 神学校ニュース

#### 「学院だより 合併38号」 (東京聖書学院)

1. 後継者を生み出す力、2. 1年訓練コース卒業の証し、3. 卒業生の皆様へ、4. イスラエル研修旅行、5. 第43回東京聖書学院講演会評議会の報告、6. 後援会ニュース

## 各学術雑誌の記事から

#### 「神学思潮 献呈論文集 XXVII」 (日本ナザレン神学校神学研究会・2016.3)

◇ナザレンの歴史を振り返り、これからの教会と宣教を考える、◇宣教の行為としての礼拝：宣教共同体としての教会が目に見える時、◇謝辞・「魂の配慮としての対話」、◇謝辞・「想起」による希望-ヘブライ人への手紙が見る神の歴史、◇謝辞・悪習慣、嗜癖に打ち勝つキリスト教的グループを目指しての一考察、◇謝辞・我々の生活の座を知るために-カール・バルト和解論より、◇謝辞・w. パネンベルクの『キリスト論要綱』における下からのキリスト論、◇謝辞・イスラエルにおけるバイリンガル教育 Neve Shalom = Wahat al-Salam 平和・共存への展望と問題性について

#### 「基督教研究 第77巻 第2号」

(同志社大学神学部基督教研究会・2015.12)

◇哲学的有神論における神の存在の機能的論証の方法論的考察-リチャード・スインバーン『神の存在』に基づき-、◇初期ルターにおける教会理解の展開-「ローマ書講義」における新しい理解の形成-、◇韓国におけるシュライアマハー受容に関する一考察-神学類型の視点から-、◇初期プロテスタンティズムにおける使徒信条の位相-洗礼式におけるその位置を中心として-

#### 「福音と福音主義 「神学」77号

「棚村重行教授献呈論文集」

(東京神学大学大学会・2015.12)

【献呈の辞】、【主題論文】①福音と日本人の共同幻想、②教会の公同性をめぐって、③「福音と福音主義」再考(一)-「キリスト教的普遍思想」と教会史(c.A.D.30-1600)から検証する、④日本メソヂスト教会「宗教箇条」第16条の成立をめぐって-近代天皇制と福音の相克、⑤J.C.ヘボン著『修心論』にみる福



音伝道への取り組み、⑥「福音主義的公同教会」の建設のために-アングリカン=メソジストの枠組みからの考察、⑦福音は日本と中国のはざ間の波濤を越えられるか？-日中キリスト教関係の回顧と展望、【自由研究】コリントの信徒への手紙-2章における霊の働き、【棚村重行教授略歴・著作目録】、【編集後記】

### 「福音主義神学 46」

(日本福音主義神学会・2015.12)

【福音主義神学、その行くべき方向(2)】、【巻頭言】、【論文】①「聖書信仰」-その「近代主義」を越えて、②福音派神学の動向、問題、および展望、③ローマ人への手紙3章20-22節「パウロ研究を巡る新しい視点」が提示する解釈的課題、④パウロ解釈の新視点についての一考察-ルター神学の立場から、【書評論文】N.T.ライト著『義とすること-神の計画とパウロの展望』(SPCK,2009年)・・・評者ガイ・ウォータース(訳:遠藤克則、日本語訳監修:坂井純人)、【研究ノート】青木保憲『アメリカ福音派の歴史』への応答

### 「キリストと世界 第26号」

(東京基督教大学・2016.3)

【講演】日本宣教-クリスチャン・ディアスポラの可能性、【論文】①賀川ハル(1888-1982)における女性観-家庭と市民社会における女性の役割、②エイレナイオスにおける聖霊の人間への臨在、③マインドマップを活用したナラティブ・ペダゴジーに実践とその宗教教育学的価値、【調査報告】パピルス45番-最古の福音書集+使徒の働き、【翻訳】A People Called *Cumberland Presbyterians Chapter*1、【書評】①丸山忠孝『カルヴァンの宗教改革教会論-教理史研究』、②Eric Jorink, *Reading the Book of Nature in the Dutch Golden Age, 1575-1715*、③Peter Greer and Chris Horst, *Mission Drift: The Unspoken Crisis Facing Leaders, Charities, and Churches*、④田上雅徳『入門講座 キリスト教と政治』、【要約】、【2014年度大学院神学研究科修了論文一覧】

### 「千葉県キリスト教史研究第4号」

(東京基督教大学国際宣教センター、2016.3)

『特集 安藤肇牧師』【巻頭言】「特集安藤肇牧師」に寄せて、【説教】「伝道者安藤肇の原点」(木下宣世牧師)、【論文】「教会と市民的自由-安藤肇の平和活動と牧会・伝道の実践」(中谷献一氏)、【書評】『深き淵より』についての書評35点(山口陽一師)

### 「礼拝・音楽研究 第65号」

(東京基督教大学教会音楽アカデミー・2016.3)

【巻頭言】、【特別寄稿】①「礼拝で心がけてきたことと工夫」、②「礼拝に生きる幸い」、③ブラックスワンを探して、④礼拝形式雑感、【エッセイ】音楽エッセイ、【2014年度公開講座講義録】①リードオルガン(公開レッスン)、②神学「合唱音楽への崇高な召し」、「16~18世紀のルター派とカルヴァン派における会衆讃美」、③オルガン「J・P・スウェーリンク(公開レッスン)~J.S.バッハに至るドイツ・オルガン楽派の源泉~」、【第44回夏期教会音楽講習会】①開会礼拝説教「神の御業があらわれる」、②主題講演「聖書が教える賜物とは」、③講演「ヘンデル『メサイア』第二部~音楽に表わされている福音~」、④演習-アンサンブル(器楽・リコーダー・トーンチャイム・声楽・バンド)、【礼拝、教会音楽、音楽奉仕者に関するアンケート調査の結果について】



## あとがき

4月5日、学園の桜が満開の中、東京基督教大学では大勢の新生を迎えての入学式が執り行われ、新学期がスタートしました。

日本宣教リサーチもお陰様で丸2年が経過いたしました。私たちが心を新たにして、主のみわざに励んでいきたいと願っています。

今回号の巻頭言は、前回号の JEA 品川総主事に引き続き、日本伝道会議に向けたプロジェクトでお世話になっている福井誠先生にお願いをいたしました。宣教や教会のあり方を考える上で、重要な視点を提示していただきました。

それは、計らずも「教会と地域福祉」フォーラム 21での問題意識、教会が若者に「ありのままに居られる場所、癒しの場、役に立てる場所、活躍の場」としての居場所を与えているか、また、「自分と違う人を認めたり、受け入れたりすることができる場、多様な人が関わりあえる場、豊かな交流の場」に教会がなっているかということにもつながる問題でもあるように思います。

また、中外日報の記事で精神科医の野田正彰氏が、「宗教者に求めるのは、徹底的に対話することと、自らの生き方を相手に示すこと。」と言われていることとも相通じるのではないかと思います。

このようなことから、自戒を込めて言えることは、宣教に携わる者は、単なる言葉だけの宣教ではなく、いかなる人とも心を開いて話し合える「コミュニケーション力」と、自らの生き方・生きざまに裏打ちされた「言葉の力」を身につけることが必要だということではないでしょうか。さらに、「ケープタウン決意表明」からの言葉。「聖書的な生き方なしに、聖書的な宣教はない。」

(初穂)



## 2015年度 会計報告と献金者名 (2015年4月～2016年3月)

昨年度も皆様の尊い献金により、JMR の活動をお支え下さり心より感謝申し上げます。ここに感謝を持って、2015年度のご報告をさせていただきます。2016年度も引き続き、JMR が日本の宣教のために用いられていきますよう、ご支援、ご加禱いただけますと幸いです。皆様の上にも主の限りない祝福をお祈り申し上げます。

### 【収入】

前年度繰越金	165,155
一般賛助会員献金	115,000
特別賛助会員献金	478,000
その他	48,673
収入合計	806,828

### 【支出】

事務・消耗品	32,687
通信費	56,483
印刷費	93,530
会議費	1,830
交通費	231,635
諸会費	221,500
広告代	17,100
支出合計	654,765

【次年度繰越金】 152,063

# 第7回 東日本宣教ネットワーク全体会議 のご案内

東日本宣教ネットワークはこれまで6回の全体会議を開いてきました。岩手県・宮城県・福島県・茨城県における被災の状況、支援活動の様子を伺い、情報を共有し、互いに祈り合い、励まし合ってきました。今回は、宮城県で取り組んできた宮城宣教ネットワーク（MMN）の働きから分かち合い、現在被災地で働いている働き人から証ししてもらいます。また震災後の宣教データを集めてきた被災地宣教研究所から報告がもたれます。被災地のみならず、地方伝道に取り組んでおられる方にきっと役立つことでしょう。皆さまのご出席を期待しています。

大友幸一（宮城県担当）

◆ 日時：2016年5月24日（火） 10:00-16:00

◆ 会場：塩釜聖書バプテスト教会

〒985-0831 宮城県多賀城市笠神2丁目11-45

TEL: 022-362-7468 FAX: 022-362-7497

◆ テーマ：「宮城県における東日本大震災後の宣教活動」

講演	「宮城宣教ネットワーク」	大友幸一
証し	「支援と伝道に関する証し」	大喜多義也、大友恒雄、小澤倫平、 中澤竜生、嶺岸浩
報告	「被災地宣教研究所」	柴田初男、ヒューレットネリ子

2016年 4月 12日

東日本宣教ネットワーク 委員会一同

□ 主催：東日本宣教ネットワーク 代表：住吉 英治（福島県）  
副代表：大友 幸一（宮城県）  
会計：吉永 輝次（茨城県）  
書記：佐々木真輝（岩手県）

何かご質問等あれば、各県担当者にお尋ねください

○申込先 大友幸一師（塩釜聖書バプテスト教会牧師）

メール [vis.7000@f4.dion.ne.jp](mailto:vis.7000@f4.dion.ne.jp)

FAX 022-362-7497

締切 5月17日（火）

○その他 昼食は各自ご持参ください（但し、当日受付で申し込む事も出来ます）。  
当日席上献金があります。（ネットワークの諸経費に充てさせていただきます。）

## 感謝のご報告と継続支援のお願い

日本宣教リサーチ (JMR) は、この4月で発足から3年目を迎えました。教会インフォメーションサービス (CIS) の支援者が継続して JMR をご支援下さったこと、また、新しい支援者も加えられましたことを心より感謝いたします。

2016 年は、「震災と信仰調査」の継続とともに、新たに 9 月に開催される日本伝道会議の「宣教 170 ▶ 200 プロジェクト」に参画し、『宣教 200 年に向けた日本宣教の現状と展望』の資料作成を担当致します。

どうかこれからの JMR の働きにご期待くださり、更なるご支援を賜りますよう、よろしく  
お願いいたします。

### 日本宣教リサーチへの支援金は、税制優遇措置が受けられます

東京基督教大学への寄付金(献金)は、税額控除制度の認定を受けているため、  
税制上の優遇で還付金が最大で寄付金(献金)額の約 50% となります。

詳しくは、☎0476-46-1131 (TCI 募金係) までお尋ねください

郵便振替口座:00110-5-575648 学校法人 東京キリスト教学園明日の宣教者育成募金

\* お振込みの際には、振替用紙に「**日本宣教リサーチ 指定**」と必ずご記入ください。  
(振替用紙がお手元がない場合はこちらよりお送りいたします)

JMR の活動は、東京基督教大学に寄付される指定献金によって賄われます。会員には一般賛助会員と特別賛助会員があります。各会員の要件と提供される成果物は以下の通りです。

- (1) **特別賛助会員**：趣旨に賛同し、支援してくださる教団・教派、宣教団体等
  - ・一口 30,000 円 (何口でも)
  - ・シンポジウムや研究会・研修会等の開催のご案内
  - ・毎年 2~4 回「日本宣教ニュース」のご提供
  - ・毎年 1 回「日本宣教に関する現状と分析」のレポート (詳細篇) のご提供
- (2) **一般賛助会員**：日本宣教に重荷と関心を有する個人、教会等
  - ・一口 2,000 円 (何口でも)
  - ・シンポジウムや研究会・研修会等の開催のご案内
  - ・毎年 2~4 回「日本宣教ニュース」のご提供
  - ・毎年 1 回「日本宣教に関する現状と分析」のレポート (概要編) のご提供



東京基督教大学 国際宣教センター

日本宣教リサーチ

【Japan Missions Research】

〒270-1347 千葉県印西市内野三丁目 301-5

学校法人 東京キリスト教学園 東京基督教大学 国際宣教センター内

TEL: 0476-31-5522 FAX: 0476-31-5521 E-mail: jmr@tci.ac.jp

<http://www.tci.ac.jp/institution/fcc/jmr>

日本宣教リサーチ代表 山口 陽一 (東京基督教大学大学院神学研究科委員長)  
日本宣教リサーチ専門委員 柴田 初男、花蘭 征夫